

小糠雨と掛詞(ファイルNo.14)

腑に落ちないというか、少し腹立たしいことがあります。最近の歌に使われる言葉です。以下の漢字をカッコ内のように読む(歌)のです。

刻(とき)、存在(こと)、音符(おもい)、現代(いま)、時代(とき)、艶(いろ)づいた、形成(つくる)、描片(かけり)

テレビの字幕に歌詞が出ますから、気付いたものをメモしておきました。少し調べた歌詞もあります。この種の言葉は数え切れません。何の意味があるのでしょうか。ただ気取っているだけでしょうか。

音符を「おもい」と歌うことについて言えば、音楽を奏でながら、音符に好きな人への「思い(想い)」を込めているということなのでしょう。意図は理解できます。歌詞だけなら洒落た表現です。しかし歌唱となれば、音符という文字は見えませんが、こんな表現が許されるのは、音符に想いをこめているのだと分らせる歌唱力、表現力がある歌手だけ。歌は時代を映します。現在の日本語の「揺れ、乱れ」も歌に反映します。

昔の流行歌に「ぬれてこぬかときにかかる」という歌詞がありました。恋人と待ち合わせしている

と雨が降ってきたのです。「濡れて来ぬかと気にかかる」なのか「濡れて小糠と樹にかかる」なのか。小糠(こぬか)とは小糠雨、雨滴が糖のように細かい雨のこと。文字としての歌詞は「来ぬかと気にかかる」のようですが、霧のような雨が樹に降りかかる情景も浮かびます。おそらく作詞者は二つの意味を込めたのではないでしょう。心情と情景、叙情と叙事を融合させた面白い表現です。深読みが過ぎるといわれれば、それまでですが。

◎駄洒落も日本語の楽しみ

掛詞(かけことば)とは、一つの言葉に二つの意味をもたせる修辞技法。和歌では古くから、表現の仕方に工夫が凝らされてきました。掛詞もそのひとつです。

大江山いく野の道の遠ければまだふみもみず天の橋立

この歌の作者である小式部内侍(こしきぶのいなし)は、幼い頃から歌才を見せました。出来が良すぎるため、母の和泉式部が代作しているとの噂があるほどでした。

和泉式部が夫とともに丹後国に赴き不在の時、歌会に招かれた小式部内侍は「歌会で詠む歌はどうしますか。お母様のいらっしゃる丹後の国へ使いは出されましたか。使いはまだ帰って来ないのですか」と代作疑惑を皮肉られました。それに対し小式部内侍が即興で作ったのが、先の歌です。

現代語訳すると「大江山を越え生野を通る(丹後への)道は遠すぎて、まだ天橋立の地を踏んだことはありません(母からの)手紙も見えていません」

生野と行く「踏みもみず」と「文も見ず」が掛詞になっています。見事なテクニクです。このエピソードは有名なので、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。

以前にもふれたように、音節が少ないため日本語には同音意義語が多く、これが掛詞の土台になっています。駄洒落(たじやれ)もまた、同じか似通った音を持つ言葉をかけて遊ぶ一種の言葉遊びなので、掛詞と同類です。「洒落」は知識と教養を示す気の利いたものでしたが、価値を認めない人々から「駄」を付けられ、駄洒落と揶揄されました。最近では若者から「おやじギャグ」といわれ、馬鹿にされます。

最初に挙げた「漢字こじつけ読み」の歌が、駄洒落、おやじギャグを啜うことはできないのではないのでしょうか。

健康な暮らしはお水から

浄水器 レンタル受付中!

1年レンタルなら...

毎日安心なお水をたっぷり使える!

取付工事費無料!

残留塩素やいやなニオイ、発ガン性物質トリハロメタンや鉛を強力除去!



(税込) 月々 1,575円

健康ライフ 100%



第3の脂肪 隠れ肥満に注意

最近、第3の脂肪に関心が高まっています。脂肪は脂肪細胞にたまります、その代表が皮下脂肪、その次は腹部を覆う腸間膜にある内臓脂肪です。第3の脂肪はそれ以外の心臓、肝臓など、今のところ14カ所の臓器にたまる報告されています。内臓脂肪の悪影響に加え、第3の脂肪が臓器に局所的なダメージを与えることがわかってきました。太っていないのに糖尿病だったり肝機能が悪かったりするの、第3の脂肪が疑われます。第3の脂肪は内臓脂肪と同様に生活習慣の改善で比較的減らしやすいことがわかっています。運動で最初に燃えるのは、第3の脂肪です。痩せている人も普段の生活のなかで体を動かすことから始め、運動を習慣化しましょう。

★塩昆布★

〈材料〉出汁をとるのに使った昆布を冷凍保存。酒・みりん・さとう(濃口醤油も=編集部)

- ①昆布は1.5~2cm角に切る
- ②水は多めにし、酒・みりん・さとう・水・醤油を加減しながらトコ火で焦がさないよう炊き上げます(少し時間がかかります)

真っ黒い、おいしい塩昆布ができます。



「わが家の自慢料理」にふるってご応募くださるよう、お願いします。採用された方には図書券をプレゼントします。

わが家の自慢料理

和歌山市 小山千代子様